第 152 号　令和 7 年（2025 年）8 月 1 日

留萌家畜衛生だより

北海道留萌家畜保健衛生所
〒098－3217
天塩郡幌延町元町 6 番地 5
電　話：01632-5-1226
F A X：01632-5-1165

1　豚熱･アフリカ豚熱について
2　高病原性鳥インフルエンザについて
3　口蹄疫について
4　馬インフルエンザについて
5　ランピースキン病について
6　監視伝染病の発生状況（留萌・北海道）
7　令和７年度予防事業計画・実績
8　市場上場牛等のヨーネ病検査について
9　留萌 BSE 検査室 検査状況について
10　病性検定を依頼するときには
11　病性検定手数料について
12　日射病・熱射病とサルモネラについて
13　着任のご挨拶
14　職員体制と連絡先

1　豚熱・アフリカ豚熱について

（1）豚熱(CSF)

道内では、豚熱の発生は確認されておらず、豚へのワクチン接種も実施しておりません。

道内への侵入防止のため、引き続き飼養衛生管理の徹底とともに道外からワクチン接種豚や精液等が移動してこないよう導入元の確認、また、異状が認められた場合の早期通報の徹底についてお願いします。

国内では、平成 30 年（2018 年）9 月に 26 年ぶりとなる豚熱の発生が確認された後、野生いのししを介して感染地域が拡大し、これまでに 24 都県 99 事例での発生が確認されています。本州では、野生いのししへの経口ワクチン散布を初めとして、発生状況把握のためのサーベイランス、感染拡大防止のための捕獲強化など、地域における対策が進められています。

先般、農林水産省より豚熱清浄化ロードマップが示されました。当面の目標として、「飼養豚での清浄化を地域毎に進め、2050 年を目途としての全国での国際獣疫事務局（WOAH）の豚熱清浄国ステータス取得」を目指すこととされています。

特徴的な症状が無く、気がつきにくい疾病です！

発熱、食欲不振、元気消失等、うずくまり、便秘に継ぐ下痢、呼吸障害等

異状を発見したら直ちに通報しましょう！

重症例は後躯麻痺・運動失調・四肢の激しい痙縮などの神経症状、皮下出血による紫斑（耳翼、尾、腹部、内股部）を呈し死亡。

写真出典：岐阜県

本病に関する最新の情報については、豚熱に関する情報：農林水産省（maff.go.jp）で随時提供されますので、情報把握にご活用ください。

（2）アフリカ豚熱（ASF）

ASF ウイルスが豚やいのししに感染することによる発熱や全身の出血性病変を特徴とする致死率の高い伝染病です。ASF は有効なワクチンや治療法はなく、発生した場合には畜産業に甚大な被害を及ぼします。ダニや感染動物と接触することで感染が拡大する他、ウイルスに汚染された加熱の不十分な肉や肉製品を豚が食べることによっても感染します。

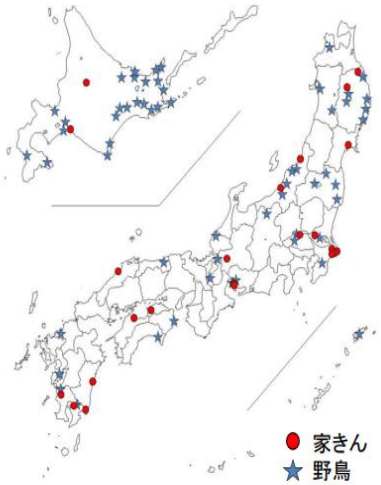
平成 30 年（2018 年）８月、アジア地域で初めて中国での発生が確認されて以降、感染が拡大し、令和５年(2023 年)12 月、韓国の釜山広域市において、日本と定期航路のある港や空港付近で野生いのししの感染が連続して確認されており、日本への侵入リスクが高まっています。

本病に関する最新の情報については、アフリカ豚熱に関する情報：農林水産省(maff.go.jp)で
随時提供されますので、情報把握にご活用く

２　高病原性鳥インフルエンザについて

今シーズン(2024～2025)は、家きん飼養農場において 14 道県 51 事例発生があり、約 932 万羽が殺処分の対象となりました。道内での野鳥における感染は、昨年９月から６月 26 日現在までに、シーズン過去最多となる 126 事例での感染が確認されています。また、今シーズンの初発生確認は、野鳥で９月 30 日、家きんで 10 月 17 日と、過去シーズンと比較して早い段階で確認されています。

今シーズンは、北海道ではウミスズメ類やカモメ類など海鳥での感染が多数確認されたことに加え、国内で初めて海棲哺乳類のゼニガタアザラシおよびラッコで感染が確認されました。海鳥や海棲哺乳類への感染拡大は世界的傾向で、国内でも家きんやヒトへの新たな感染リスクとして注意が必要と考えられます。



今シーズンの発生農場で分離されたウイルス株の一部は、過去シーズンに確認された株の一部とすべての遺伝子分節が一致していましたが、昨年の春から夏にかけて野鳥の感染事例の報告がなく、気温が高くなる夏季にウイルスが残存する可能性は低いと考えられることなどから、今シーズンに改めて海外からウイルスが侵入した可能性が高いと考えられます。農場へのウイルスの侵入については、野鳥の感染が広い範囲で起こったことのほか、続発事例においては、防疫作業時に羽毛や塵埃が飛散

しやすいことがリスクとなった可能性も考えられました。
日頃から家畜保健衛生所や自衛防疫団体等が中心となって地域の農場間で意見交換等を行い、第三者の視点を入れた農場における衛生管理の水準の向上を図るとともに、地域で協力し、農場周辺の雑草や不要な木の除去、農場周辺のため池の水抜きやテグスの設置等、野鳥や野生動物の誘因リスクを低減するための対策が重要です。
引き続き、飼養衛生管理を徹底し、飼養家きんに異状又は死亡率の増加を認めた場合は速やかに家畜保健衛生所にお知らせください。

本病に関する最新の情報については、[鳥インフルエンザに関する情報：農林水産省（maff.go.jp）](maff.go.jp)で随時提供されますので、情報把握にご活用ください。

3　口蹄疫について

令和７年（2025 年）３月に韓国における発生、アジア周辺諸国においては継続発生が確認されています。また、国内への人や物の往来が急速に増加している状況を踏まえると、今後も口蹄疫が侵入するリスクは高い状況です。口蹄疫が国内へ侵入するのを防ぐため、飼養衛生管理基準の徹底や早期発見のための監視強化に万全を期していただくようお願いします。

本病に関する最新の情報については、[口蹄疫関する情報：農林水産省（maff.go.jp）](maff.go.jp)で随時提供されますので、情報把握にご活用ください。

４　馬インフルエンザについて

本年４月、熊本県の馬飼養農場において、国内では平成 20 年（2008 年）以来となる馬インフルエンザの発生が確認されました。その後、道内においても十勝地域の馬飼養農場で発生がありました。馬インフルエンザは主に発咳、鼻汁、発熱などの風邪のような症状が見られるウイルス性の疾病で、家畜伝染病予防法により届出伝染病に指定されています。馬インフルエンザウイルスは飛沫等で経気道感染し、著しく伝染力が強いため、短期間に多数の馬が感染し、急速に流行が拡大します。本病はワクチンで症状は抑えることが出来ますが、発症を防ぐことができないため、飼養衛生管理の徹底を含め衛生対策をお願いします。

激しい咳

鼻汁

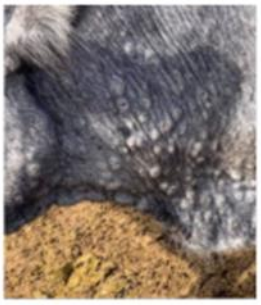
５　ランピースキン病について

ランピースキン病はランピースキン病ウイルスによって引き起こされる牛や水牛の病気です。令和６年（2024 年）11 月、国内初となるランピースキン病の発生が福岡県で確認されました。令和７年（2025 年）５月現在、福岡県 19 例、熊本県３例の計 22 例確認され、疑症牛を含めて、国内では累計 230 頭の発症が確認されています。自主淘汰等を進め、現在発症牛は確認されていません。

本病の対策には、サシバエ等による伝播を防ぐため、殺虫剤の散布等のベクター対策が重要です。さらに、器具を介した感染を防ぐため飼養器具等の洗浄・消毒も重要です。

結節（全身性）

結節



結節

６　監視伝染病の発生状況（留萌、北海道）

≪令和7年次　監視伝染病発生状況（留萌・北海道）≫

区分	畜種	病名		留萌（6月末時点）		北海道（4月末時点）	
				戸数	頭羽群数	戸数	頭羽群数
法定伝染病	牛	ヨーネ病				115	271
	山羊					1	1
届出伝染病	牛	牛ウイルス性下痢	（真症）			9	12
			（疑症）			1	1
		牛伝染性リンパ腫（旧牛白血病）	（真症）	13	19	105	221
			（疑症）			1	1
		破傷風				2	3
		気腫疽				1	34
		サルモネラ症				6	12
	馬	馬鼻肺炎	（真症）			8	10
			（疑症）			7	9
		馬インフルエンザ				2	11
	豚	豚丹毒				4	17

７　令和７年度予防事業計画･実績

事業名	実施地域	検査対象	実施時期
牛のヨーネ病検査 飼養衛生管理基準の 遵守状況の確認	羽幌町	肉用雌牛（24か月齢以上）	６月終了
	天塩町 （南地区）	乳用雌牛（24か月齢以上）	９～12月
蜜蜂の腐蛆病検査	管内全域	飼育されている全蜂群	８～９月
高病原性及び低病原性鳥インフルエンザの定点モニタリング	天塩町	採卵鶏	６～９月
牛伝達性海綿状脳症（BSE）検査	管内全域	死亡牛	通年
飼養衛生管理基準の 遵守状況の確認	管内全域	鶏	９～11月
		めん羊、山羊	通年
		豚	８～12月

８　市場上場牛等のヨーネ病検査について

≪令和7年度（2025年度）　市場上場牛等のヨーネ病検査実施日程≫

南北海道肉牛市場　開催日	採血期間	受付締切日（必着）
８月 ６日（水），　７日（木）	７月　１４日（月）　～　２２日（火）	７月２２日（火）
９月 １０日（水），１１日（木）	８月　１８日（月）　～　２６日（火）	８月２６日（火）
１０月 ８日（水），　９日（木）	９月　１６日（火）　～　２４日（水）	９月２４日（水）
１１月 １２日（水），１３日（木）	１０月　２０日（月）　～　２８日（火）	１０月２８日（火）
１２月 １０日（水），１１日（木）	１１月　１７日（月）　～　２５日（火）	１１月２５日（火）
令和8年（2026年）　１月 １４日（水），１５日（木）	１２月　１５日（月）　～　２３日（火）	１２月２３日（火）
２月 １１日（水），１２日（木）	１月　１９日（月）　～　２７日（火）	１月２７日（火）
３月 １１日（水），１２日（木）	２月　１６日（月）　～　２４日（火）	２月２４日（火）
４月　未定	３月　１６日（月）　～　２４日（火）	３月２４日（火）

☆検査対象：採血日において６か月齢以上の牛（月齢が満たない牛は検査できません）

☆必要書類：① 採材獣医師、採材日、対象農場・牛がわかるもの

② 病性検定診断申請書

③ 個体の名号が分かるもの（血統登録証など）

④ ヨーネ病自主検査料補助金交付申請書

⑤ ヨーネ病自主検査牛採材証明書

※公益社団法人　北海道家畜畜産物衛生指導協会が行うヨーネ病自主検査料補助金交付事業を申請する場合

９　留萌ＢＳＥ検査室　検査状況について

令和６年（2024 年）度から国内のＢＳＥ検査基準を定める省令等が改正され、検査の対象となる死亡牛が一部変更されました。

令和５年（2023 年）度までは、96 か月齢以上の死亡牛は、死因にかかわらず全て検査対象となっていました。また、48 か月齢未満の死亡牛は検査対象外でした。

しかし令和６年度からは、月齢に関係なく、生前に特定症状が見られた、もしくは確定診断のついていない進行性の神経症状が見られた死亡牛が検査対象となっています。

○ 検査頭数

R7検査頭数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
乳用牛	22	13											35
肉用牛	1	0											1
計	23	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	36
R6検査頭数	48	18	12	18	23	17	22	13	10	18	18	9	226
R5検査頭数	85	75	73	85	92	89	83	65	81	95	73	67	963

令和６年度は令和５年度の検査頭数の約４分の１となりました。

○ 飼養者のみなさまへ

・これまで対象ではなかった、48 か月齢未満の死亡牛でも、ＢＳＥ検査「要」となるものがありますので、死亡獣畜処理指示書の検査要否をよく確認して運搬業者に渡してください。

・死亡獣畜処理指示書に検査の要否が記載されていなければ、運搬業者の集荷前に指示書発行獣医師に確認をお願いします。

○ 獣医師のみなさま

・農場での死亡獣畜処理指示書の発行時に、ＢＳＥ検査の要否のチェックや、要検査時の「症状又は疾患」名の記載が抜けている事例が散見されています。死亡牛の円滑な集荷運搬、ＢＳＥ検査実施への障害となっていますので、記載をよろしくお願いします。

・診療所へ帰った時に今一度指示書を確認いただき、もし誤りがあった際はすぐに飼養者・運搬業者・当検査室に訂正の連絡をお願いします。

10　病性検定を依頼するときには

〇 必ず事前の連絡をお願いします。疾病原因検索の場合、治療前の発症初期に採材することが重要です。状況の確認を併せて検体の相談をします。

○ 検体搬入の際は、病性鑑定依頼簿等に検査個体の情報（個体番号・品種・性別・生年月日等）を記入し、検体と一緒に搬入してください。

①　健康検査（移動のための検査等）

病性鑑定依頼簿等に個体情報、採材年月日、採材獣医師名、証明書の必要の有無、結果の送付先、移動の場合は移動予定日も記載してください。また、必要に応じて血統登録証等（写し）も添付してください

	搬入材料	採材量	注意点
ヨーネ病	血清 糞便	2ml以上 ピンポン球大程度	○ヨーネ病自主検査は採材時6か月齢以上であること
牛ウイルス性下痢	血清 全血(EDTA血) 鼻腔スワブ	2ml以上 （血清、全血）	○6か月齢未満の場合は、血清と全血(EDTA血)もしくは鼻腔スワブの両方を送付してください。
牛伝染性リンパ腫	血清 全血(EDTA血)	2ml以上	○6か月齢未満の場合は遺伝子検査が必要になるため全血が必要

② 疾病原因検索

疫学情報（ワクチン接種歴・発生経過等）も重要です。病性鑑定依頼簿等に疫学情報を記載するとともに、カルテの写しを添付してください

	搬入材料	採材量	採材方法･注意点
呼吸器病原因	鼻腔スワブ 全血(EDTA血) 血清	鼻腔スワブは3本/1頭 	○なるべく鼻の奥の方から採材してください。 ○採材後の鼻腔スワブは乾燥させないようにしてください。 →当日搬入が望ましいですが、送付する場合などは綿球が湿っている程度に滅菌生理食塩水をいれてください。 ○複数頭の採材が望ましいです。 ○抗体検査の後血清は、約３週間後に採材をお願いします。
下痢原因	糞便 鼻腔スワブ(BVD) 全血(BVD、サルモネラ) 血清	糞便はピンポン球大 	○糞便は直検手袋で採材してください。 ○発症初期の複数頭の採材が望ましいです。 ○抗体検査用の後血清は、約３週間後に採材をお願いします。
異常産原因	胎子 胎盤 母牛血清		○確定診断には、胎子・胎盤の搬入が重要です。 ○融解しやすいので発見次第搬入が望ましいです。 ○牛の場合は家畜伝染病予防法第５条に基づくブルセラ症のサーベイランスを実施します。
病理組織学的検査	臓器	病変部を3cm×3cm×3cm大に切り取り、10～20%ホルマリン液に入れる	○採材後、速やかに十分量のホルマリンに浸漬してください。 ○搬入時はホルマリンが漏れないよう密封容器に入れてください。
牛伝染性リンパ腫疑い	血清 全血(EDTA血) 血液塗抹	全血は2mL以上	○採材当日に搬入できない場合は、血液塗抹標本も送付してください。
小型ピロプラズマ疑い	血清 全血(EDTA血)	全血は2mL以上	○血液塗抹標本を送付される場合であっても全血も併せて送付してください。

11　病性検定手数料について

項目	単価	備考(例)
病理解剖検査	5,950	死亡牛の解剖検査のみ
鏡検	780	BLV:白血球百分比、白血球数の測定 小型ピロプラズマ 内部寄生虫卵、コクシジウムの検査
一般培養	1,330	サルモネラの健康検査、サルモネラ対策農場の同居牛、環境検査
特殊培養	3,400	細菌の培養検査(サルモネラの同定、薬剤感受性試験など)
一般血清反応検査	820	抗体検査(オーエスキー病)
特殊血清反応検査	3,220	抗体検査(BLV、馬パラチフス)
病理組織学的検査	2,950	
一般理化学的検査	1,400	血液生化学検査
特殊理化学的検査	3,160	定性的な遺伝子検査(BLV、BVDなど) イムノクロマト法(ロタウイルス、クリプトスポリジウムなど) 抗原ELISA(BVDV)
特殊血清・遺伝子学的検査	4,400	ヨーネ病自主検査
特殊遺伝子・遺伝子学的検査	7,340	ヨーネ病検査のスクリーニング遺伝子検査を使用するもの
特殊遺伝子学的検査	6,680	定量的な遺伝子検査(ヨーネ病)
総合病性検定	7,670	病理解剖検査を伴わない
総合病性検定	10,980	病理解剖検査を伴う
証明書	500	
特別診断（100km未満）	5,790	
特別診断（100km以上）	11,590	
焼却	29,460	

12　日射病・熱射病とサルモネラについて

今年度も６月から日射病・熱射病の調査を開始しています。留萌管内は比較的冷涼で日射病・熱射病の発生が少ないと思われがちですが、昨今、真夏日も観測されています。家畜は適温(乳牛は 4～24℃)を超えると、採食量や抵抗力が低下し、その結果、乳量の減少や受胎率の低下など長期的な被害が報告されています。

また、これから気温や湿度が上がると、サルモネラが環境で増殖しやすい時期になります。暑熱対策にも注意を払いサルモネラ症の発生を防止しましょう。

サルモネラ症を防ぐために
- 農場に「入れない」：導入牛の健康チェック、野生動物の侵入防止
- 発症したら「拡げない」：疑わしい個体はすぐに検査、発症牛は速やかに隔離
- 環境を「汚染させない」：踏込消毒の徹底、器具・機械・車両の消毒徹底

サルモネラ症を疑うときは当該牛を隔離して、すぐに病性鑑定の受検をお願いします。

13　着任のご挨拶

次長　　神間　清恵（ジンマ　キヨエ）

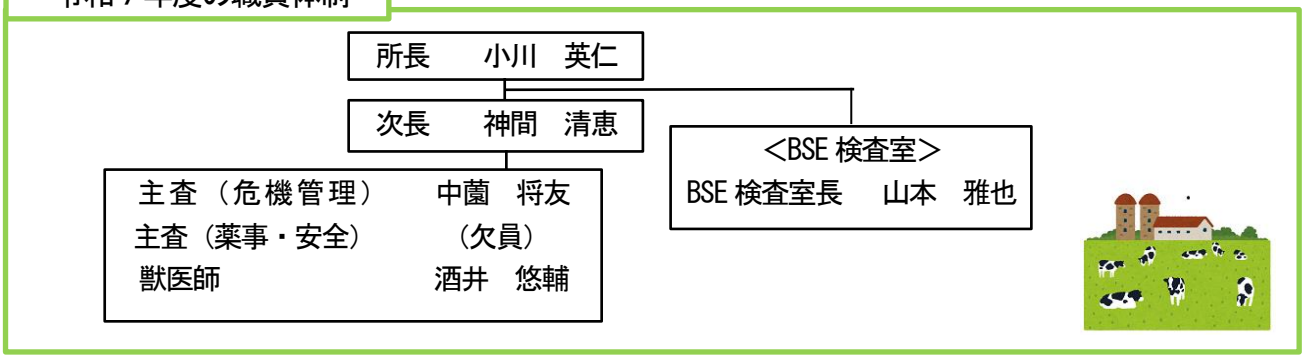
十勝家畜保健衛生所から異動してきました、24年ぶりの留萌家保勤務です。当時とは情勢がずいぶんと変わっており、変化に驚きながらこの3か月勤務しています。新人の当時よりはお役に立てることが増えていると自分を鼓舞しながら、お役に立てるよう努めていきますのでよろしくお願いします。

主査　　中薗　将友（ナカゾノ　マサトモ）

胆振家畜保健衛生所から異動してまいりました中薗将友と申します。留萌での勤務は初めてですが、車の運転中に窓から見えるきれいな海、天売焼尻島、利尻山など、風光明媚な景色を楽しみながら、オロロンラインのドライブを早速楽しんでいます。地域関係者の皆様方の御協力をいただきながら、いち早くこの土地に慣れて、管内の畜産衛生推進に役立てるよう努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

14　職員体制と連絡先

令和７年度の職員体制



【　連絡先　】

北海道留萌家畜保健衛生所	TEL (01632) 5-1226　FAX (01632) 5-1165
北海道留萌家畜保健衛生所ＢＳＥ検査室	TEL (01632) 9-3515　FAX (01632) 9-3711

夜間や休日など当所閉庁日における緊急時は、留萌振興局・総合案内(0164-42-8404)にご連絡ください。

https://www.rumoi.pref.hokkaido.lg.jp/ds/khe/index.html